

科学年報年報会誌

1962

(11)

5月17日

嵯峨野総合科学館にて

10.00 ~ 12.30

出席者 羽生、坂田、谷山、宮坂、油島、田中、藤原  
青木、三宅、田島、湯川  
渡辺、小浜、河川、若木、山内、沢

坂田 挨拶

三浦川: REQUIEM FOR CPT

羽生: Pugwash 会合の経過

第一回: COSWA 1957 (3%)

欧米の国連と COSWA に Pugwash 会合を関し、  
NATO の中心に人々を惹く。

1. Hazard of Fallout
2. Control of Nuclear Weapons
3. Social Responsibility

第二回: カナダ 1958  
科学者  
核兵器の  
管理の  
必要性

核兵器の管理と  
相互に  
監視の  
必要性

第三回: Kirchbühel - Wien 1959 (5%)  
核兵器の  
管理の  
必要性

核兵器の  
管理の  
必要性

Wien 宣言

第四回: バン (米露交渉) 1959  
disengagement missile satellite

第五回: Pugwash 1959  
biological warfare, chemical warfare



(7)

14.15 ~ 17.30

田中隆造: 核分裂連鎖と原子爆 (内田の進出)

国際原子力の推進と国際的取り上げの状況

第1回 国際会議 1946年1月 London

国際会議開催 A) Acheson-Rhodes (委員会) 案  
原子力利用の推進の目的は P+U のエネルギーに在る!!!

(原爆の恐怖)

原子力に関しての推進力の統一と世界的な国際機関

推進機関 (政治・政策)

段階: 1. 1. 1

2. 1. 2 案: 推進禁止・政策 国際機関

3. 1. 3 案: 推進禁止・政策

推進力の統一と世界的な国際機関

1946年12月 国際会議: 原子力利用の推進の目的は P+U のエネルギーに在る!!!

1. 1. 1 案: 推進禁止・政策

1949年7月: 国際原子力委員会: 1949年10月

(1950年1953年: 国際会議)

1949年7月: 1. 1. 1 案: 推進禁止・政策

1951年11月: 米英仏露中 5国協議

1. 1. 1 案: 推進禁止・政策

1952年 P+U 力: 原子力の平和的利用を推進し、国際的取り上げの状況

1952年 P+U 力: 原子力の平和的利用を推進し、国際的取り上げの状況

1953年 P+U 力: 原子力の平和的利用を推進し、国際的取り上げの状況

1954年 P+U 力: 原子力の平和的利用を推進し、国際的取り上げの状況

1954年 P+U 力: 原子力の平和的利用を推進し、国際的取り上げの状況

(4)

1954: *Avelles* 報復の案,  
物理学: 赤い雲の追加から何の必要もない  
(London 会議 1954.6)  
(協会(米国)としてのソ連軍が来た)  
(米軍の空軍機: 空軍に打ち勝つ機を海軍核兵器に  
集中させているものと見られる)  
→ 空軍の完結

1955: ソ連の原子力兵器の増強を示す (米空軍の序と序の  
初めと終り)

PTC-117A: 空中攻撃 (第1回首脳会議)  
1 (1956) ソ連: 核兵器が確立された。一般空軍の  
対空 攻撃で空中攻撃を続ける)

(1957: 禁核実験条約)  
1957: 空軍小委員会。ソ連: 一般空軍として  
核兵器停止。空中攻撃の範囲を拡大する。

地上核兵器の範囲。西側: 1957年の核兵器停止は、  
停止。核兵器停止が行われない限り 12月の14日。  
決定がなされた

(1957: Göttingen 宣言)

(1957: Satellite)

ソ連: 空軍小委員会 不承認 (1958: 7月29日  
空軍小委員会)

1959 核兵器停止空軍小委員会 (1958)

空軍小委員会 (1958)

1959: 空軍小委員会 (1959年1月)

ソ連: 空軍小委員会 (7月29日)

1960: P+1力: 現実的民衆 (1960年10月)

核兵器の撤去 (general and comprehensive  
disarmament)





(7)

アキアベリー: イタリアの小説家の旗手。  
→ 現代世界の方向を指示している。  
世界政治の中心: 国際連盟の一部を物議。  
(世界を動かす) 世界法。(国家が個人)

- 平和主義の演習の物語。  
Chicago 警察官の世界を流す。  
A. 世界を動かす 平和主義、可成  
B. 世界政治が激化  
C. 世界政治は平和、可成

国家の中心から人類の中心へ。  
老人の心: 平和と正義  
世界政治の詩篇 (= パラ)

- アメリー・リーブス  
世界政治の歴史と動 → 今のモラル  
H. アインシュタインの演説。  
1. 人類の苦悩  
2. 人類を救うための目的として考え。  
3. 責任 → 10人の国家の平和の責任の責任

世界平和同盟を代表として世界政治

フツエル: 政治的理論機構 → 世界政治の機構。  
新しい世界を創る。

14.15 ~ 姓名: 新沢氏  
読者氏: 世界平和と日本憲法  
第9巻: 戦争放棄 新澤海也,  
1791 フランシエ  
戦後の光のゆめの戦争放棄  
1931 スペイン 鳴地  
停戦の理由 (国連の) 戦争放棄  
1928 不戦条約  
ワシントン条約, ロンドン条約  
1921: 長崎氏 国連決議案 (英法)

Russell: Which way to peace  
一方の戦争停止

McArthur draft (McArthurの草案)  
McArthur note (McArthurの草案)  
自衛隊の戦力?  
自衛隊の戦力?  
自衛隊の戦力?

自衛隊の戦力,  
防衛法 政治的 Manifest

civilian control 政治的発言の抑制  
海外派遣 松本氏にF15の抑制力

防衛力の削減  
自衛隊の戦力の危険性.  
憲法の戦力追加の危険性.

第9巻の現実的根拠  
Pugwash movement  
Sade と insane の向 → 政治的根拠  
政治的根拠 と 防衛根拠.

エリクソン  
"人民の力について"

(9)

自由貿易.

大凡:

経済的、政治的統合 → World Authority (Russell)

植民地的関係管理 → 世界経済

Ramakrishnan

EEC

Regionalism

相互協力委員会.

(10)

5月9日 10~12:30 湯川 泰久氏

三宅氏 講演の件  
2018年 貿易の理論  
輸入  $\rightarrow$  matrix  $\rightarrow$  輸出  
Trade-off  
経済的価値:

関税十人委員会:

Against what  $\rightarrow$  for what

P+1の議論: Military industrial complex (冷戦和互作用の論議)  
長年続いた論議 (Eisenhower)

米日交渉の経緯:

P+1の議論: 西松、スミス  
貿易の自由化を阻むこと、先例、  
都市計画、経済政策、

work & labor 金をつくら つかなく  
先進国間の、

against communism for com. freedom  
freedomの内容は何が?

Manual "自由貿易と我々の国々の自由貿易を築く"

10月6日

貿易の進行と後、  
1928年 提案、

20% 25% (貿易のDuty)

国産品の輸入、

$\rightarrow$  人類の豊満、